# 平成30年度

# 水生生物調査結果報告書 (東京都内湾)





令和2年3月 東京都環境局

#### 表紙の絵

#### 左:オオタカ(幼鳥)(森ケ崎の鼻、平成31年2月)

日本の代表的なタカの一種。伝統的な狩猟方法である「鷹狩り」に古くから用いられてきた。 ハトやカモなどの鳥類が主食だが、野兎やリス、ネズミを狩ることもある。環境省レッドリスト (2018)で準絶滅危惧(NT)、東京都レッドデータブック(2013)で絶滅危惧 I A 類(CR)に指定されている。

#### 右:コショウダイ(稚魚)(城南大橋、平成30年10月)

湾奥から外湾にかけての干潟域などの浅瀬で、夏から秋にかけて体長 3~10cm 程の幼魚がみられる。尾ビレ以外は褐色で、擬態していると考えられる。成長に伴って体色が変化し、成魚は全体に 黒色の斑紋が散らばったようになる。

# 東京都内湾の水生生物生息状況 (平成30年度)



イラストはイメージです。必ずしも高次の生物と 食物連鎖の関係があるとは限りません。

東京都内湾には、河口域や干潟域、河口と干潟をつなぐヨシ原、浅海部、内湾部等様々な環境があり、環境に応じて、さまざまな生き物が生息しています。 環境局では 昭和 61 年から環境押堀の一環とし

環境局では、昭和 61 年から環境把握の一環として水生生物調査を実施してきました。

平成30年度には、以下の種類数が確認されました。

鳥類調査 : カワウ、カモ類等 56 種 成魚調査\* : ハタタテヌメリ等 20 種 稚魚調査 : マハゼ、ビリンゴ等 38 種 付着動物調査: ムラサキイガイ等 64 種 底生生物調査: アサリ等 69 種 プランクトン: スケレトネマ等 43 種

※成魚調査は、小型底引網を使用した底生魚類を対象とした調査です。

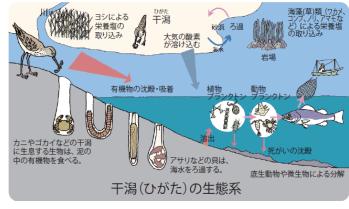
生きものは、海をきれいにする働きがあります。

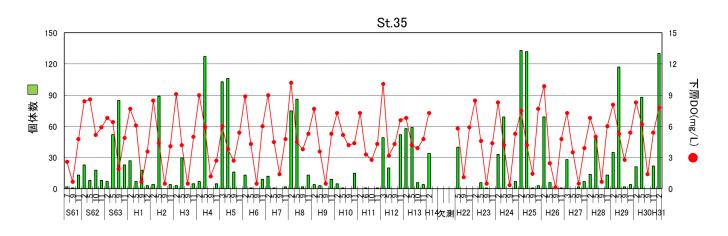
わたしたちの出した汚れ(有機物)は、 貝、カニ、ゴカイなどの生物のエサとなり ます。それらを鳥や魚等が捕え、移動や漁 獲されることで系外に排出されます。また、 微生物は、海底の汚れ(有機物)を酸化し て窒素を取り除きます(脱窒作用)。

さらに干潟では、二枚貝が海水を取り込ん

だ際にプランクトンなどの懸濁物を取り除き(ろ過)、海をきれいにしています。

一方、東京都内湾の底層では、夏季に酸素濃度が低下する現象が発生しています。下図は、成 魚調査の出現個体数と下層の溶存酸素量(DO)の関係を示したものです。9月の調査では下層(海 底から 1m上部)の溶存酸素量が2mg/L 以下となることが多く、出現個体数は極端に減少して います。貧酸素水塊の存在が生物に与える影響は大きいのです。





# 調査地点(赤字の地点については巻頭3~5ページで紹介しています。)



(St.31)

干潟部 5地点

(葛西人工渚、お台場海浜公園、城南大橋、森ヶ崎の鼻、多摩川河口干潟)

#### 護岸部 2地点

(中央防波堤外側(その2)東側、13号地船着場)

※調査地点の詳細については、本文2、3ページ参照。



2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会で、トライアスロンや水泳マラソンの会場に決定したお台場は、江戸時代、ペリー来航時に砲台を置いた場所で、今でも二つの台場が残っています。一時期は貯木場として使用されていましたが、その後、海浜公園として整備されました。現在、近くには複合商業施設やテレビ局本社があり、夜には多くの屋形船が停泊し、東京の観光スポットとして賑わっています。人工砂浜も整備され、誰でも海のすぐ近くまで近づくことができます。

#### 調査位置図



#### 鳥類調査

第六台場、鳥の島の樹上ではカワウやサギ類が営巣。





鳥の島、岩礁でイソシギやキョウジョシギが休息・採餌。





鳥の島付近の海上でウミアイサやスズガモの群れが遊泳。



## 稚魚調査



東京湾を代表する魚類の一つ。 1年で20cm程度まで成長し、成長に伴って呼び名が変わる出世魚。



一年の中で、春(5月)は、イシガレイやボラ、東京湾の代表種であるマハゼ等の多くの稚魚を確認できた。また、冬(12、2月)には川から海に下ってきたアユの仔魚が見られた。

# 葛西人工渚(東なぎさ) ~水生生物の楽園~

実施調査:鳥類、稚魚



葛西人工渚は、葛西海浜公園に造成された人工の干潟です。2つの干潟(西なぎさ、東なぎさ)から成っています。西なぎさには橋が掛けられ、人の立ち入りが可能となっており、近年は海水浴体験イベントが実施され話題となっています。一方、東なぎさは環境保全ゾーンとなり、一般の立入が禁止され、鳥をはじめとした水生生物の楽園となっています。



#### 鳥類調査







①のエリア カルガモの群れ、 シギ・チドリ類が採餌。



①のエリア上空 ミサゴが飛翔。 英名は「オスプレイ」。

②、③のエリア カワウやウミネコ、サギ類の群れが休息・採餌。シギ類が採餌。





④のエリア 護岸でサギ類、シギ・チドリ類が休息。

#### 稚魚調査







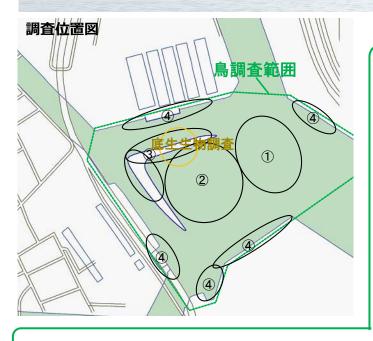


環境省レッドリストで絶滅危惧 II 類 (VU) に指定されているエドハゼや干潟域で生活するビリンゴが多く確認された。また、夏 (7月) には葛西で3年ぶりにマルタが確認され、冬 (2月) には川から海へ下ってきたアユの稚魚が確認された。

#### 

実施調査:鳥類、底生生物

森ヶ崎の鼻とは、羽田空港の北西の運河域に位置する約 15ha の干潟のことです。干潮時には、くの字型の干潟が干出します。京浜島緑道公園等から眺めることが出来ますが、一般の立ち入りはできません。すぐ脇には東京モノレールが走っています。また、隣接する森ヶ崎水再生センターの屋上には、NPO 法人等により守られたコアジサシの人工営巣地があります。



#### 鳥類調査

 ②のエリア アジサシ類、 カモメ類、 シギ・チドリ類等が 採餌、休息。





③のエリア 干潟は、カワウ、カモメ類、サギ類が休息。



④のエリア 護岸周辺では、カモ類、カモメ類、シギ・チドリ類が採餌、休息。









種の保存法:国際希少野生動植物種

環境省レッドリスト 2018:絶滅危惧 Ⅱ 類 (VU)

東京都レッドリスト 2010 版(区部):絶滅危惧 I B 類(EN)

オーストラリア、ニュージーランドで越冬し、4~8月に日本周辺で繁殖。近年、自然の営巣地が減っている。森ヶ崎の鼻に隣接する森ヶ崎水再生センター屋上に人工営巣地がある(NPO、行政)。

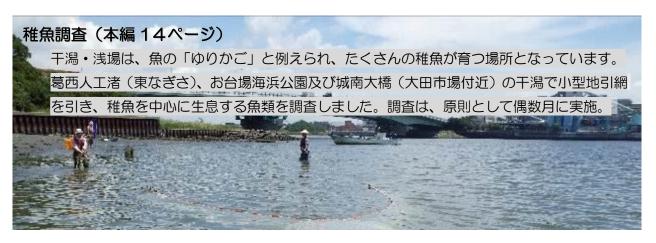
# 底生生物調査







春夏を通じて、多毛類(写真右)が種類数・個体数ともに最も多い。また、ホンビノスガイやアサリ、ヤマトシジミも多く確認された。河川水(淡水)の影響を受けるため、海水性種は少ない。



#### 葛西人工渚(東なぎさ)







#### お台場海浜公園

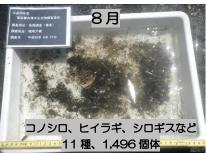






#### 城南大橋







#### 稚魚調査(小型地引網)で採集された代表種

種 名	生態情報	図•写真
マハゼ	東京では最も大きくなるハゼ。 春先、稚魚が河口付近の干潟に現れ、成 長するにつれて色々な場所へ散らばって いく。河口や内湾ではU字型の深い穴を 掘って産卵する。	東京都内湾の代表的な底生魚である。稚魚調査で確認されるマハゼは、10 cm 程の個体が主であるが、育つと全長は30 cm 程度となる。 秋から冬にかけて最も人気な釣りの対象種。

種名	生態情報	図・写真
ビリンゴ	泥底から砂泥底に住む。河口部に泥底域が発達しているところに多い。 岸辺近くの泥底に穴を掘るか、アナジャコやゴカイなど、他の動物が掘った穴を利用して巣を造り、巣穴の壁面に雌が産卵した後ふ化まで卵を守る。ふ化仔魚は一旦海に下り、しばらくして川へ遡上する。	お台場海浜公園 5月 寿命は2~3年であるが、1年で成熟して産卵後に死 亡する個体も多い。全長は6cm程。
エドハゼ	自然環境が保たれている河川の河口域に 生息する。砂泥底を好み、スナモグリ類 やアナジャコ類が掘った巣穴を使って暮 らしている。主に小型甲殻類を食べる。 特に、葛西人工渚で多く出現する。	葛西人工渚 2月
ボラ	出世魚で、小さいものから順に、ハク、 オボコ、イナ、ボラ、トドと呼ばれる。 卵巣を加工したものはカラスミと呼ばれ、珍重されている。 都内河川の下流部から内湾に広く分布している。泥底の有機物などを餌とする。	海面で飛び跳ねる。お台場海浜公園で跳ねている魚を 見かけた場合、その多くはボラである。成魚の全長は 60cm 程度。
スズキ	東京湾を代表する魚。河口の干潟などでは、春先、数cmの稚魚が多く現れる。東京湾を広く回遊し、都心近くの運河でも見られる。河口部から内湾に広く分布しており、ゴカイ類、甲殻類、小魚などをエサとする。	小型のものは、体に黒っ ぼい斑点がある 成長すると全長は 50~90cm 程度になる。

# 魚類調査において確認された魚類以外の生物の代表種

干潟の地引網調査では、魚類の他に、アミ類や二枚貝などが採集されます。それらは稚魚などのエサとして重要な役割を持っています。

<b> </b>	種名 生態情報 写真		
11 1		JA	
アサリ	日本全国の淡水の影響のある内湾潮間帯の砂泥底に生息する。 競長4cm、殻高3cm程になる。東京湾の 干潟の代表種で、多くの人が潮干狩りを楽 しんでいる。東京湾も多くの浮遊幼生が確 認され、着底場さえあれば、生息可能であ るとされている。	東京湾のアサリは、貝の柄が派手と言われる。	
二ホンイサザアミ	汽水域に生息するアミの仲間(エビの仲間でない)である。魚類等の餌となり、食物連鎖において植物プランクトン等生産者のエネルギーを上位の消費者に渡す重要な役割を果たしている。佃煮や飼料としても利用される。		



St.25



11月 19種、580個体 下層 DO 5.1mg/L



9月 3種、48個体 下層 DO 0.3mg/L



2月 18種、2494個体 下層 DO 9.1mg/L



下層 DO(溶存酸素濃度)が低くなる夏場では、生物がほとんど確認できなくなります。酸素濃度 が回復に向かう秋口から徐々に生物が戻り始めます。しかし、次の夏にはまた生物が生息できなくな る環境が発生するということが、現在の東京湾の大きな課題となっています。

成魚調査(ビームトロール)で採集された代表種(魚類以外も含む)

種名	トロールので採集された代表種(無類以上 生態情報	
テンジクダイ	内湾から水深100mくらいまでの砂泥底にすむ。 夜行性で、7~8月頃産卵する。 雄が口の中に卵の塊を含んで守る。 海底の小動物をエサとする。	目が大きい 全長は9cm 程度 St.25 2月
ハタタテヌメリ	内湾の砂泥底にすむ。雄と雌とで模様が異なる。雄は尾びれが長くて糸状に伸びる。粘液を出すのでヌルヌルする。ゴカイ類や二枚貝を餌とする。食用になる。	St.22 2月
マコガレイ	水深100m以浅にすむ。イシガレイと異なり、成魚になると浅瀬では見られない。産卵期は冬で、東京湾では40cm以上のものも出現する。	St.10 11 月
シャコ	東京湾では 15~30mの深さにすむ。肉食性で甲殻類、多毛類等を捕らえて食べる。江戸前の寿司ネタとして重宝されるが、近年、漁獲が少ない。	St.35 11月
タイラギ	尖ったほうを下にして海底に立っている。大きいものは殻長 25cm を超えるが、湾奥部では貧酸素の影響でこのサイズ (10cm 程度) で死滅する。潮通しのよい内湾の干潟から潮下帯、水深 30m の砂泥底に生息する。	St.35 11月
ホンビノスガイ (外来種)	設長 10cm を越える丸みを帯びた 三角形の大型種。 貧酸素状態等の環 境悪化に耐性がある。 外来種である が、東京湾ではおなじみの貝となっ ている。 殻の色は本来白っぽいが、 底泥中の硫化物の影響で黒っぽく なっている。	St.22 11 月
シノブハネエラ スピオ	干潮線以深の砂泥底に生息し、汚染の指標種として知られる。3対の鰓があり、この鰓はすべて羽状の突起をもち、ハート型をした鰓葉が重なっている。体長5cm程度。	10



※各地点の調査範囲内での鳥類の様子は3~5ページ参照。

#### 調査の方法

望遠鏡や双眼鏡を用いて、船上や高台から鳥の種類ごとにカウントし、その行動(休息、採餌等)についても確認を行いました。

#### 鳥類調査で確認された代表種及び重要種の一例

	直に推論された代表性及び重要性の一例		
種 名	生態情報	写真	
カワウ	留鳥として内陸の淡水や河川、湖沼等で最も一般的に見られる。たくみに潜水して魚類や甲殻類を捕食する。 関東での繁殖はほぼ一年中であり、水辺近くの林で集団繁殖する。東京湾周辺では、第六台場や行徳鳥獣保護区等をコロニー(集団繁殖地)やねぐらとして利用している。	お台場海浜公園 5月 東京湾の浅場は重要な採餌場所であり、 多くの個体が採餌のために集まる。	
スズガモ	冬鳥として内湾や河川、湖沼等に渡来するが、沿岸の海や大きい内湾、河口部に多くみられる。東京都では、餌となる魚類やアサリ、シオフキガイ等の二枚貝が豊富な葛西人工渚周辺とお台場海浜公園の海上に見られる。冬に確認される個体数は非常に多く、数千~数万羽の群れが見られることもある。東京都レッドリスト2010では留意種となっている。	葛西人工渚 1月 東京湾で見られるカモ類のうち、最も個体数 が多い。夏季には繁殖しない個体が少数見ら れることもある。	
ホシハジロ	冬鳥として湖沼、池、河川、河口、内 湾などに飛来する。雄の頭部と首は赤 褐色、胸は黒く、体は灰色。雌は頭部 から首が褐色、体は灰褐色。群れでい ることが多い。水中に潜って、水生植 物の茎や根、イネ科植物の種子などを 食べる。甲殻類などの動物も食べる。	森ヶ崎の鼻 1月	

種 名	生態情報	写真
ユリカモメ	ごく普通に見られる、やや小型の力モメ。冬季に海岸の漁港や河口、干潟、河川等に渡来。主に昆虫や無脊椎動物、死肉等を餌とする。群れで生活し、大群になることもある。 冬鳥であるが、夏季に少数が越夏することもある。春季と秋季の渡りの時期には、数千羽が見られることがある。	森ヶ崎の鼻 8月 写真ように、夏季は頭部が頭巾を被ったよう に黒くなる。都民の鳥に指定されている。
アオサギ	日本に生息するサギ科では最大のサギ。水辺で魚を捕える。よく茂った樹林などに他のサギ類と共に集団繁殖地(コロニー)を形成する。鳴き声、フンの問題で近隣住民とトラブルになり、追い払われることが多い。第六台場、鳥の島でカワウ、コサギ、ダイサギとコロニーを形成しており、東京都内では数少ない繁殖地である。	お台場海浜公園 2月
コアジサシ	夏鳥として湖沼、河川、砂浜等に渡来し、体長10cm位以下の小魚を餌とする。繁殖期は5~7月で、海岸や川の中州、埋立地の砂地や砂礫地で集団繁殖する。東京都では、森ヶ崎水再生センターの屋上に人工営巣地が造成されている。種の保存法の国際希少野生動物等に登録されている重要種。	森ヶ崎の鼻 5月
カンムリカイツブリ	主に冬鳥として海岸や海岸付近の湖沼、大きな河川等に渡来し、魚類や甲殻類、昆虫類等を餌とする。東京都では冬季に葛西人工渚周辺の海上に集中して見られる。かつては生息数が少なかったが、1993年度以降から急激に増加した。潜水して魚類や甲殻類、昆虫等を捕食する。東京都レッドリストでは留意種。	お台場海浜公園 2月 冬羽では顔から胸が白く、首が長く体が大き いため、海上に浮いていると白く目立つ。
キョウジョシギ	旅鳥として春季と秋季に海岸の岩場や砂利地等に渡来し、水辺を活発に動き回って餌をとる。嘴は短く頑丈でやや上に反っており、砂地や岩の隙間などから甲殻類や昆虫類を捕食する。主に森ヶ崎の鼻の干潟やお台場海浜公園の岩場が採食場所や休息場所として利用されている。東京都レッドリストでは絶滅危惧 I 類(VU)。	葛西人工渚 5月

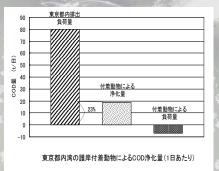
## 付着動物調査(本編130ページ)

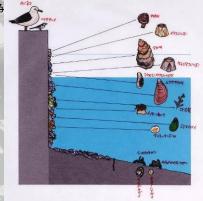
付着動物とは護岸についた生き物のことです。調査は、岸壁から海底まで潜水して垂直に分布 状況を調べます。付着動物は、その場所でじっとしているため、長期間にわたる環境の影響が反 映されます。中央防波堤外側(その2)東側、13号地船着場で5月に年1回、付着動物の調査を 実施しました。付着動物は、ムラサキイガイ等の外来種が多いことが特徴的で、バラスト水との 関係で水環境・生態系の問題となっています。

垂直護岸の付着動物の死骸は、海底に堆積して貧酸素水塊が形

成される一因とも考えられています。一方、付着生物は水質の浄

化にも寄与しており、東京港内護岸総延長での COD 浄化量が、東京湾に排出される汚濁負荷量の 23%に相当するとの試算結果(\*\*)もあります。
(※)東京都環境科学研究所木村ら 1998



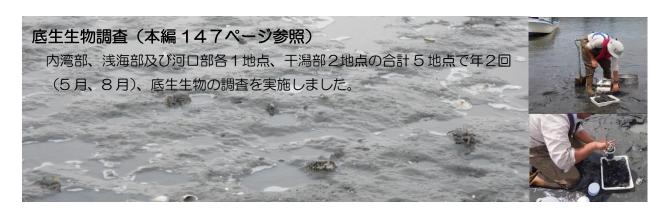


#### 調査地点の状況

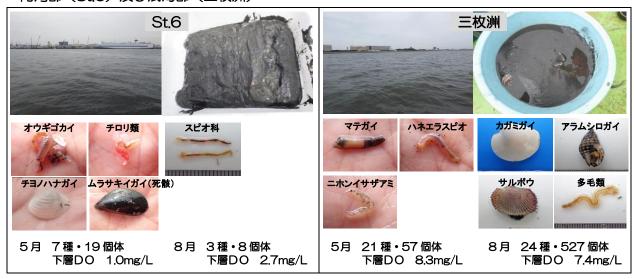
	中央防波堤外側(その2)東側	13 号地船着場
概況写真		
備考	中央防波堤外側埋立地の外側岸壁を調査地点として設定。	お台場海浜公園から中央防波堤埋立地へ通じる第二航路海底トンネル排気塔にある船着場 を調査地点として設定。

#### 付着動物調査で確認された代表種等

種名	生態情報	今年度の確認状況	
イワフジツボ	【代表種】潮間帯の岩の上部に群生する小型のフジツボ。殻口は広く、周殻は単独のときには円錐形であるが、密集すると円筒形を呈する。長時間の干出によく耐える。北海道南西部以南に分布し、内湾でもかなり奥まで分布する。周殻の直径8mm内外。	両地点とも潮間帯の上部に優占した。	
ムラサキイガイ	【代表種・外来種】ヨーロッパ原産で、昭和初期、船舶に付着して運ばれ、日本各地に広がった。港湾のブイや漁網、防波堤などに密集して付着する。殻は外洋性のイガイに似ているが、薄質で光沢がある。殻長7cm、殻高4cm程度。	両地点とも潮間帯の中間部で優占した。	



#### 内湾部(St.6)及び浅海部(三枚洲)



#### 河口部(St.31)及び干潟部(多摩川河口干潟)



#### 下層 DO と表層 DO

調査対象の底生生物が生息している付近の水深の DO を併せて載せています。干潟・浅場では、 夏季でも生物が生息できる程の溶存酸素量があることがわかります。

下層 DO (海底から 1m 上) : 内湾部、浅海部 表層 DO : 干潟部、河口部

## 主要な底生生物出現種

軟体動物門 腹足綱 ヒメコメツブガイ Retusa minima 軟体動物門 二枚貝綱 ヤマトシジミ Corbicula japonica 説明 殻長3mm。殻はやや厚質で白色。個体によっては中 央が細くなる。水深10~100mの砂泥底に生息する。 砂底から泥底に生息する。日本産シジミ類で最も普 通に食用されているシジミである。 【出現状況】 東京都RDB 留意種、 夏季のSt.6で出現した。 千葉県RDB 重要保護生物 (B)、 環境省RDB 準絶滅危惧 (NT)。 千葉県RDB 最重要保護生物 (A) 【出現状況】 森ヶ崎の鼻と多摩川河口干潟でそれぞれ出現した。 軟体動物門 二枚貝綱 アサリ Ruditapes philippinarum 軟体動物門 二枚貝綱 ソトオリガイ Laternula marilina





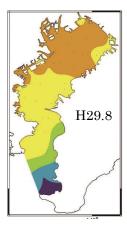


環形動物門 ゴカイ綱 シノブハネエラスビオ Paraprionospio patiens 節足動物門 甲殻綱 ヤマトオサガニ Macrophthalmus japonicus				
体長5cm程度。干潮線以深の砂泥底に生息し、汚染の指標種として知られる。3対の鰻があり、この鰻はすべて羽状の突起をもち、ハート型をした鰻寒が重なっている。  【出現状況】 春季の三枚洲、St. 31、夏季のSt. 6、三枚洲で出現	環形動物門 ゴカイ綱 シノブハネエ	ラスピオ Paraprionospio patiens	節足動物門 甲殻綱 ヤマトオサガ	= Macrophthalmus japonicus
の指標種として知られる。3対の鰻があり、この鰻はすべて羽状の突起をもち、ハート型をした鰻薬が重なっている。  【出現状況】 春季の三枚洲、St. 31、夏季のSt. 6、三枚洲で出現	説明		説明	
	の指標種として知られる。3対の鰹があり、この鰹 はすべて羽状の突起をもち、ハート型をした鰓葉が 重なっている。 【出現状況】 春季の三枚洲、St.31、夏季のSt.6、三枚洲で出現		穴を掘って巣穴を作る。巣穴の入り口には放射状の 浅い溝ができる。 【出現状況】	



# 生き物の脅威となる「貧酸素水塊」

東京湾、とりわけ東京都内湾では、毎年、夏季において、下層に溶存酸素量(DO)の低い「貧酸素水塊」が、広範囲・長期に形成されます。この水塊は、水生生物の生育・生息を阻害する原因の一つとなっており、東京湾の水環境の大きな課題となっています。貧酸素水塊形成の要因と考えられるのは、夏季を中心に発生する赤潮です。赤潮については、「平成30年度 東京湾調査結果報告書 ~赤潮・貧酸素水素調査~(東京都環境局)」にて詳述しています。





一般的に、DO が 4 mg/L 程度以下から生物の生息に影響が出始め、2 mg/L 以下では、生物の生息が極めて難しくなると言われています。

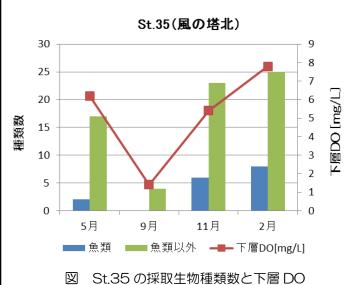
DO 2.0 3.0 5.0 7.5 10.0 [mg/L]

平成 29 年度における東京湾の下層 DO(溶存酸素量)の平面分布

左: 貧酸素水塊が広がる8月、中央: 回復過程にある12月 (東京湾岸自治体環境保全会議ホームページより)

# 貧酸素水塊の影響 ~成魚調査より~

平成30年9月の調査時には下層の溶存酸素量が著しく低下しており、生物種類数が激減しました。一方、貧酸素水塊が形成される前の5月、解消後の11月、2月の調査では、多くの生物が確認されています。





# 速報記事紹介(一部抜粋)

#### 稚魚調査 平成30年5月

# お台場海浜公園



採取試料



今回は、マハゼ、ビリンゴ、アシシロハ ゼ、ボラ等が採取された。また魚類以外で は、アサリやエビジャコ属、ニホンドロソコエ ビ等を採取した。

地曳網を20m程度曳網して試料を採取する。



東京湾を代表する魚のひとつ。 内湾や河口域の砂泥底に生息す る。稚魚は、初夏から秋にかけゴカ イや甲殻類を食べて成長し、徐々 に深所へと移動する。

ニホンイサザアミ



汽水域に生息するアミの仲間(エ ビの仲間でない)。

The factor of the same

河口域で春に大量発生し、魚類 等の餌として重要であるほか、佃 煮やアミ漬として、人間にも利用さ れている。



河口付近の干潟域で仔稚魚が3~ 5月に大量に発生する。

稚魚が成長するにつれて河川上流 側に移動する。

早春にアナジャコ等の甲殻類の巣 穴に産卵する。



潮干狩りなどで盛んに獲られてい る代表的な二枚貝である。 東京湾のものは形が細くて、模様 のコントラストが強いものが多い。



湾奥から湾央の河口や干潟域で見 られる。

成魚は春になると干潟域に集中的 に出現し、マハゼの着底稚魚を大 量に捕食する。



内湾の干潟に生息する巻貝であ る。死んだ生物の肉を食べる(腐 肉食性)ことから、『海の掃除屋』 などと呼ばれている。

#### 鳥類調査 平成30年6月

#### 〇調査地点の状況

最干時に調査を行い、干潟が広く干出していた。



#### 〇出現種(カワウの群れ)

干潟でカワウの群れ、アオサギ、ウミネコが休息。







#### 〇出現種(コアジサシ)

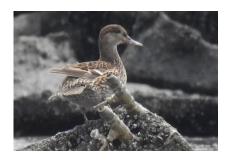
干潟での休息、水上での採餌が確認された。 森ヶ崎水再生センター屋上には人口営巣地が 設置されており、平成30年6月時点で推定営 巣数554巣、成長約200羽、ヒナの誕生が NPO法人リトルターン・プロジェクトにより 確認されている。

#### 〇出現種(ササゴイ)

岩礁で採餌中のササゴイが観察された。翼の羽根が白く、 笹の葉に見えることかが和名の由来とされる。夕方に活動 することが多いが、日中に活動することもある。

本種は東京都レッドリスト(2013)で絶滅危惧 I A 類 (CR) に指定されている。





#### 〇出現種(コガモ)

干潟で採餌を確認した。カモ類は冬季に渡来する種が 多いが、本種は留鳥として1年中見ることができる。 また、カモ類も雌雄で羽の羽色が異なることが多い が、コガモは雌雄同色である。

#### 【参考】

東京湾再生推進会議

「東京湾再生のための行動計画(第二期)」(平成25年5月)

快適に水遊びができ、「江戸前」をはじめ、<u>多くの生物が生息する</u>、親しみやすく美 しい「海」を取り戻し、首都圏にふさわしい「東京湾」を創出する。

「第8次水質総量削減の在り方について(答申)」一部抜粋(平成27年12月)

「干潟・藻場の保全・再生等を通じた<u>生物の多様性及び生産性の確保等の重要性</u>にかんがみ、湾・灘ごとなどの実情に応じた総合的な取り組みを推進していくことが必要である。」

# ~赤潮(プランクトン)調査、水生生物調査の速報を発信しています~

# 東京都環境局HP

東京都 水環境





( http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/water/index.html

HPでは、水生生物調査、赤潮調査の速報や、過去の報告書等を掲載しています。

平成 30 年度 東京都内湾水生生物調査 6 月鳥類調査 速報

#### ●実施状況

平成 30 年 6 月 13 日に鳥類調査を実施した。天候は晴れで、気温  $20.2 \sim 26.9$ °C、北~南の風、風速  $3.1 \sim 3.7$ m/sec であった。調査当日は大潮で、干潮が 10 時 34 分 (6cm)、満潮は 17 時 17 分 (199cm)であった(東京都港湾局のデータ)。各地点の概況を下表に示す。5 月と比べ、シギ類はあまり見られなかった。

	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
作業時刻	8:00-9:25	9:45-10:54	12:22-13:31
天候	晴	晴	晴
気温(°C)	20.2	24.3	26.9
風向	北	東	南
風速(m/sec)	3.1	3.5	3.7

# twitter

水環境関連のツイートをしています。





東京都環境局【公式】 ● @tochokankyo · 2018年11月1日 【#東京湾生物NEWS】 葛西人工渚で発見した、とっても小さな #エドハゼ の稚 魚。環境省のレッドリストで絶滅危惧 I 類(絶滅の危険が増大している種)に選定 されています。kankyo.metro.tokyo.jp/water/tokyo\_ba...

